



## とっとり SDGs 企業認証 認証事業者申請内容



事業者名	株式会社モリタ製作所
所在地	京都府京都市伏見区東浜南町680
代表者	代表取締役社長 田中 博
業種	製造業
事業概要	歯科・医科医療器械器具の製造・販売

# とっとりSDGs 企業認証 申請チェックシート

[申請者名: 株式会社モリタ製作所]

## 2030年に目指す姿

1-1<2030年に目指す姿> SDGsの達成に向けた自社の目指す姿を記載してください。

※自社の現状や、実行可能な取組からの積み上げで目標を設定するのではなく、自社がSDGsの達成に貢献するために2030年にはどんな企業でありたいかを検討し、記載してください。

人々の健康で笑顔溢れる心豊かな生活創造に役立つ最高の商品とサービスを提供しつづけることにより、幸福な社会の実現に貢献するという使命のもとで当社は、歯科用医療機器・耳鼻咽喉科用機器・教育実習用機器などを開発・製造し、世界に向けて販売するグローバル企業です。医療の明日を切り開くため、常に最先端の確かな技術で、「人が中心」のデザイン・コンセプトを追求しています。これまでに臨床、教育、研究現場の先生方のご指導を仰ぎながら先生方と患者さまの夢を実現するべく数多くの製品とサービスを世の中へ送り出してきました。

その中で、当社のSDGsの取り組みは、「医療」「人」「地球環境」という3つの社会的課題解決テーマを設けて進めています。

「医療」においては、質の高い医療の普及のため最良の製品・サービスを提供し社会に貢献することを方針に掲げ活動しています。特に重要な課題は、質の高い歯科医療をすべての人に受けてもらうことです。歯及び口腔の健康を保つことは、単に食物を咀嚼するという点からだけでなく、食事や会話を楽しむなど、豊かな人生を送るための基礎となるものです。う蝕及び歯周病に代表される歯科疾患は、その発病、進行により欠損や障害が蓄積し、その結果として歯の喪失に繋がるため、食生活や社会生活等に支障をきたし、ひいては、全身の健康に影響を与えるものとされています。定期的な歯科検診を受けている人と受けていない人のう蝕の有無と歯周ポケットの深さの差ですが、定期的な歯科検診を受けた人が圧倒的に優位という結果になっています。歯周病は脳梗塞から心筋梗塞、糖尿病に至るまで全身の健康にかかわります。歯の喪失状況も、国民健康上の大きな問題です。

このような状況に対して当社では、最先端の技術を基に引続き製品開発を行い、これまでの診断機器では見えなかった部分をもっと正確に診断できるようにする、患者さんが不快な音や振動を感じることなく治療を受けられるようにする、歯科医も患者さんも楽な姿勢で正確にかつ効率の良い診療ができるようにするなど革新的な診断・治療が行える医療機器を開発し提供することで人々の健康に貢献したいと考えております。そして世の中には、身体に障がいを持つ方や高齢者など歯科治療を受けたくても受けられない方々がいます。そうした方々にも快適に診療を受けていただけるよう障がい者用歯科診療ユニットや在宅で院内と変わらない診療を受けられる機能・性能を持った可搬型ユニットを提供することで、誰もが歯科診療を受けられるようになります。

加えて、当社では、2014年より「行こう歯科健診」と称して従業員の歯科健診受診率100%を目指す取組を開始しました。一方で厚生労働省の調査によると、2016年に歯科検診を受診した人の割合は52.9%でした。2人に1人しか1年間に歯科を受診していない状況です。このような背景を踏まえ、国の進める国民皆歯科健診に先立って、昨年より当社協力企業の従業員に向けても、歯を大切にすることの重要性を伝え歯科健診受診率を向上する活動を開始しました。当社協力を皮切りに他の業界へも積極的にアプローチし、2030年には国民の100%が歯科健診を受診している姿を目指して取り組んでまいります。

「人」においては、以下を方針に掲げて活動しています。

<社外の人々に対して>

- ・地域コミュニティに参画しコミュニティを支える
- ・社外関係者と連携し活躍を支援する

<社内の従業員に対して>

- ・健やかで働きがいのある職場を実現する

特に重要な課題は鳥取工場での雇用の創出と地域産業の活性化です。当社は2016年4月に倉吉市で鳥取工場を稼働しました。工場稼働当初従業員56名でスタートしましたが、2023年4月現在、130名を超える仲間と日々医療機器を生み出しております。2030年に向けて引続き当社が生み出す医療機器を世界中へ提供するために生産を拡大し、より多くの雇用の創出と地域産業を活性化したいと考えています。その中で「四恩の精神」を常に大切にします。「四恩」とは、天地、国家、父母、衆生の四つの恩を意味し、「日常より恩を思い、感謝の気持ちを持って良心的な商いをせよ」という当社創業者の遺訓によるもので、創業以来受け継がれてきた教えです。私たちは、常にあらゆる人に支えられていると感じ、関わるすべての人々に「感謝」と「思いやり」の気持ちを持つことを大切にしてきました。2030年もさらにその先もこの精神を忘れずに鳥取県及び倉吉市への「感謝」と「思いやり」をもって事業活動を続けてまいります。

「地球環境」においては、以下を方針に掲げて活動しています。

- ・気候変動防止に貢献する
- ・生物地球化学的循環のリスクを低減する
- ・水質資源を保護する
- ・循環型社会に貢献する

特に重要な課題は「気候変動の防止」と考えております。当社では2050年にカーボンニュートラル達成を大目標に掲げており、通過点である2030年にはCO<sub>2</sub>排出量を2020年比で50%削減したいと考えております。

鳥取工場においては「水質資源の保護」が重要と考えております。鳥取工場周辺(倉吉市谷)は下水道が整備されていない地域です。通常、浄化槽で処理した生活排水は河川に放流することが可能とされています。しかしながら、排水する河川は農業用水にも利用されており、将来にわたって河川への汚染のリスクを考慮し、雨水以外を工場外に排出しない無排水循環再生方式の排水循環システムを導入しています。生産活動による排水はもちろん、浄化槽の生活排水も排出していない工場は全国でも非常に珍しいと言われています。一方でこのシステムでは多くのエネルギーを使うため多くのCO<sub>2</sub>を排出します。2030年には「水質資源の保護」と「気候変動の防止」の両立する姿を視野に入れます。具体的には、日本古来の「肥溜め」「畑」の原理を利用して、無電源、無放流で処理可能な環境配慮型トイレの仕組みの導入を検討します。

「医療」「人」「地球環境」をテーマに取り組み、これからもみなさんに愛される企業であり続けていられるようにさらに研鑽を積み重ねて質の高い医療の普及のために最良の製品とサービスを提供し社会に貢献してまいります。

**1-2<上記の目指す姿の実現に向けた重点的な取組> 該当するチェックシートの取組項目を記載してください。**

社会 8 社会配慮型商品・サービスの提供 社会 10 地域社会への貢献  
 経済 9 雇用の維持・拡大  
 環境 4 燃料消費量の削減 環境 8 排水循環システムの維持

**1-3<重点的な取組推進時のインパクト(正の影響、負の影響)の分析・考察>**

上記の重点的な取組を実施することが、他方面へどのような影響をもたらすか、その効果だけでなく、負の影響も含めて分析し、記載してください。

◆社会 8 革新的な診断・治療が行える医療機器を開発し販売する  
 社会 8 に記載している革新的な診断・治療を行える医療機器を開発することで、これまでの診断機器では見えなかった部分をもっと正確に診断できるようにする、患者さんが不快な音や振動を感じることなく治療を受けられるようにする、歯科医も患者さんも楽な姿勢で正確にかつ効率の良い診療ができるようにすることで人々の健康に貢献したいという考えのもとで取組んでいる。また、身体に障がいを持つ方や高齢者など歯科治療を受けたくても受けられない方々がいる。そうした方々にも快適に診療を受けてもらえるよう障がい者用歯科診療ユニットや在宅で院内と変わらない診療を受けられる機能・性能を持った可搬型ユニットを提供することで、誰もが歯科診療を受けられるようになる。これらを世界に拡販することで生産が拡大し雇用の創出につながるというプラスの影響が出る。その一方で、販売した製品は最終廃棄物となり環境負荷となるが、今後、廃棄時の分別方法を顧客に伝達することで廃棄物ではなく資源とすることができると考える。

◆社会 10 地域産業の活性化 及び 経済 9 雇用の創出  
 社会 10 に記載している当社が鳥取工場で鳥取県内からの資材調達を継続拡大すること及び経済 9 に記載している生産を拡大して雇用の創出を行うことにより、倉吉地区の活性化及び鳥取県の方々の県外流出を防ぐことができ地域社会への貢献はもちろんのこと、障がいを持つ方や高齢者など多様な人材の活躍といったプラスの影響が出ると考える。その一方で当社への資材運搬や生産拡大によるエネルギーの使用により環境負荷も大きくなることが予想される。このことについては、EV 車の導入や再生可能エネルギーの導入など、コストをかけてでも環境負荷を減らそうという取組みの足掛かりとなると考える。

◆環境 8 排水循環システムの維持 環境 4 燃料使用量の削減  
 環境 8 に記載している排水循環システムの維持に関して、下水道が整備されていない鳥取工場周辺(倉吉市谷)地域でこのシステムを維持することにより、農業用水にも利用される周辺河川への汚染のリスクを将来にわたって極限まで減らすことができる。その一方でこのシステムでは水を乾燥させる際に多くのエネルギー(LPG ガス)を使うので CO2 排出量が増える。これについては、日本古来の「肥溜め」「畑」の原理を利用して、無電源、無放流で処理可能な環境配慮型トイレの仕組みの導入を検討し、環境 4 に記載した燃料使用量を削減し、「水質資源の保護」と「気候変動の防止」の両立する姿を視野に入れる。なお環境配慮型トイレの仕組みを鳥取県内の企業から導入を検討することにより地域産業の活性化に繋がると考える。

取組み	正の影響 主なキーワード	負の影響 負のキーワード
・社会配慮型商品・サービスの提供 (革新的な医療機器の開発及び製造販売)	・生産の拡大 ・雇用の創出	・環境負荷(産業廃棄物)
・地域産業の活性化 ・雇用の創出	・多様な人材の活躍 ・環境負荷低減のきっかけ	・環境負荷(ガソリン、電気、ガス)
・排水循環システムの維持	・地域産業の活性化	・環境負荷(LPGガス)

## 社会

	取組項目	取組確認	現在の取組 (実施内容や時期などを具体的に記載)	今後の目標・目標達成に向けた取組
1	労働災害の防止	○	<p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課長、係長、チーム長向けに労働災害を防止する為の、作業員の安全確保や安全管理についての教育を実施(全社)</li> <li>・労使メンバーによる安全パトロールの実施(月1回全社)</li> <li>・安全衛生委員会メンバーによる5Sパトロール、安全パトロールを実施(年1回全社)</li> <li>・安全衛生管理委員会の開催(月1回全社)</li> <li>・労働安全の啓蒙の為のポスターの掲示(全社)</li> </ul>	<p>【今後の目標・達成時期】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・労働災害発生件数を半減(5件以下)にする。(2028年度までに 全社において)</li> </ul> <p>【目標達成に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・労働安全コンサルタントの先生と顧問契約を締結し構内の巡回と改善助言、安全衛生管理規程の整備、安全衛生に関する最新情報の提供を実施して頂き、製造関連部門が中心となり社内随時展開する(全社)</li> </ul>
2	ハラスメントの防止	○	<p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・管理職部次課長、係長向けにハラスメント防止研修を実施(全社)</li> <li>・ハラスメント相談について、社内窓口と社外窓口を設定(全社)</li> <li>・相談員向けに研修の実施(全社)</li> </ul>	<p>【今後の目標・達成時期】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・管理職部次課長、係長向けにハラスメント防止研修を継続して実施(年に1回 毎年継続実施 全社において)</li> </ul> <p>【目標達成に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート実施し研修の内容を必要に応じて見直しを行う(全社)</li> <li>・一般社員向けのハラスメント研修実施検討(全社)</li> </ul>
3	女性の活躍	○	<p>&lt;KPI&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全従業員に対する女性の割合 32%(2023.3時点 全社において)</li> <li>・正社員に対する女性の割合 11.5%(2023.2時点 全社において)</li> <li>・全管理職に対する女性管理職の割合 3%(2023.2 時点 全社において)</li> </ul> <p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女性活躍推進行動計画(新卒・中途にかかわらず女性社員を積極採用し、また、女性が課長等級以上の地位で活躍できるための行動計画)を2021.4に策定(全社)</li> <li>・女性の管理監督職を設置(鳥取工場 1名)</li> <li>・育児中でも働きやすい環境づくりとして在宅勤務制度を制定(全社)</li> <li>・女性が働きやすい環境づくりとして女性の保健師を常駐させている(全社)</li> <li>・採用時、希望する学生には当社で活躍している女性社員との面談の機会を設け働くイメージをもってもらおう(全社)</li> </ul>	<p>【今後の目標・達成時期】</p> <p>&lt;KPI&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全従業員に対する女性の割合 35%(2028. 時点 全社において)</li> <li>・正社員に対する女性の割合 15.0%(2028.3 時点 全社において)</li> <li>・全管理職に対する女性管理職の割合 5%(2023.3 時点 全社において)</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新卒・中途正規採用者に占める女性の割合を20%以上とする。(2023年度以降毎年継続 全社において)</li> </ul> <p>【目標達成に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・働き方改革推進による、誰もが働きやすい環境の整備(全社)</li> <li>・女性のキャリアアップに向けたセミナー開催(全社)</li> </ul>
5	多様な人材の活躍	○	<p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な社員(高年齢者、外国人等々)が活躍できる環境づくり <ul style="list-style-type: none"> <li>◆高齢者の活躍推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・65歳以上の高年齢者雇用制度の導入検討 2023.7の規定発効に向けて労働組合と調整中(全社)</li> </ul> </li> <li>◆外国人の活躍推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象者には英語での人事制度説明、人事関連資料配布を実施(全社)</li> <li>・対象者には人事評定を英語で実施(全社)</li> <li>・公用語を英語としている(本社 国際部)</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>・海外での活躍推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>TOEICの学習援助及び一定基準以上の点数取得者に対する報奨金制度を導入している(全社)</li> <li>グローバル人材育成制度を導入している(全社)</li> </ul> </li> <li>・非正規雇用から正社員への転換について <ul style="list-style-type: none"> <li>正社員登用に関するガイドラインを運用中(全社)(優秀な即戦力人材の確保と安定して働ける就業機会の提供とチャレンジ意欲・やる気の高揚を目的とする)</li> <li>本ガイドラインに基づき、2023年3月 3名(うち1名鳥取工場)が非正規雇用から正社員登用された</li> </ul> </li> </ul>	<p>【今後の目標・達成時期】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・65歳以上の高年齢者社員人数増 17名(2023年2月 全社において)</li> <li>→ 30名(2028年3月 全社において)</li> <li>・グローバル人材の育成。希望者より選考し語学研修を実施(2028年までに20名育成)</li> <li>・正社員登用に関するガイドラインに従って、優秀な即戦力人材について正社員登用を継続して実施する(全社)</li> </ul> <p>【目標達成に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・65歳以上の高年齢者雇用制度開始(2023.7全社にて)、開始後、規定や制度の周知と適正運用(全社)</li> <li>・日本語教育の補助推進(e-ラーニング、オンライン日本語会話の活用 全社において)</li> <li>・契約社員に対する人事評定の実施(2025年度 全社)</li> </ul>

6	<b>多様な働き方の促進</b>	○	<b>【主な取組】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>働き方改革宣言をモリタグループ共同で発信(全社)</li> <li>勤務システム導入による勤務管理の実施(全社)</li> <li>部門ごとの年休取得率を共有し、全社で取得の推進を実施(全社)</li> </ul>	<b>【今後の目標・達成時期】</b> 年休取得率 60%達成 (2028年3月 全社)  <b>【目標達成に向けた取組】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>業務効率化&amp;生産性向上(ムダ撲滅、自動化、ロボット化、標準化の推進 全社において)</li> <li>多能工/多機能社員の育成</li> <li>適切な業務配分(各職場の人員配置の見直し 全社において)</li> </ul>
7	<b>労働者への人権配慮</b>	○	<b>【主な取組】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>公益通報相談窓口の設置(全社)</li> <li>法令遵守方針/コンプライアンス管理規定の中に労働者の人権配慮に関する項目を策定し、社員に教育・啓蒙実施(全社)</li> <li>定期的(2年に1回)に組織健康度調査の実施(全社)</li> <li>管理監督職向けの階層別教育に労働者への人権配慮に関する教育を組み込み込み検討(全社)</li> </ul>	<b>【今後の目標・達成時期】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>入社時の全社員への法令遵守方針/コンプライアンス管理規定の教育を100%達成(2023年 全社において)</li> </ul> <b>【目標達成に向けた取組】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>世の中の変化に対応して法令遵守方針/コンプライアンス管理規定を適宜改訂(全社)</li> <li>管理監督職向けの階層別教育に労働者への人権配慮に関する内容を追加する(全社)</li> <li>入社時に全社員への教育・啓蒙を実施(全社)</li> </ul>
8	<b>社会配慮型商品・サービスの提供</b> <u>※環境に配慮した商品・サービスは環境9に記載してください</u>	○	<b>【主な取組】(全社)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの診断機器では見えなかった部分をもっと正確に診断できるようにする、患者さんが不快な音や振動を感じることなく治療を受けられるようにする、歯科医も患者さんも楽な姿勢で正確にかつ効率の良い診療ができるようにするなど革新的な診断・治療が行える医療機器を開発し提供する</li> <li>歯科治療を受けることが困難な患者さまにも治療を受けていただくことができる治療環境の提供 (訪問歯科用ユニット、障がい者用歯科診療セットを製品としてラインナップ)</li> <li>歯科医師や歯科衛生士を目指す学生さんらにより臨床環境に近い環境で実習を行うことができる実習設備を製品としてラインナップ</li> <li>市場の情報を取り入れて、各部門で連携を図り、製品開発を製品開発計画に沿って実施</li> <li>企画⇒設計⇒試作⇒量産とモノ作りを進めていく関所で設計審査会(DR)を開催しQCDの観点で問題がないかを、それぞれの専門家が適切なタイミングでチェックをする</li> </ul>	<b>【今後の目標・達成時期】(全社)※confidential</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>開発計画の通り</li> </ul> <b>【目標達成に向けた取組】(全社)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>市場の情報を取り入れて、各部門で連携を図り、製品開発を製品開発計画に沿って継続実施</li> <li>企画⇒設計⇒試作⇒量産とモノ作りを進めていく関所で設計審査会(DR)を継続して開催しQCDの観点で問題がないかを、それぞれの専門家が適切なタイミングでチェックをする</li> </ul>
10	<b>地域社会への貢献</b> <u>※環境に関する内容は環境10に記載してください</u>	○	<b>【主な取組】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>鳥取県内企業からの資材調達(全社)</li> <li>安心安全マップの制作への協賛(全社)</li> <li>AEDの設置(全社)</li> <li>「こども110番のいえ」の協力(全社)</li> <li>地元自治会でのお祭り・イベントの協賛(打吹まつり・倉吉市福祉協議会に協賛 鳥取)</li> <li>小学校 会社見学/町内会の子供会の工場見学の受け入れ(鳥取工場)</li> <li>主要取引先15社に歯科健診受診を推進「1年に1回の歯科健診受診」を啓発することで取引先の皆さまの歯の健康を守る(全社) 参加人数 1,121名 2022年度目標 716名受診</li> </ul>	<b>【今後の目標・達成時期】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域のスーパーを存続させるために売上貢献の継続(2023年度～継続 鳥取工場)</li> <li>鳥取県内企業からの資材調達の継続(毎年)</li> <li>当社主要取引先の従業員歯科受診率100%(2027年度 全社)</li> </ul> <b>【目標達成に向けた取組】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>倉吉市灘手地区で住民主体で営業するマイクロスーパー「なだて明るいノーズン」の当社社員の利用の推奨、クリスマスケーキ販売斡旋。(鳥取工場)</li> <li>倉吉商工会議所や地域行政と連携を継続し、鳥取県内企業の情報収集を図り、新規に資材調達できる先がないかの調査を実施(鳥取工場)</li> <li>歯科健診受診率向上の取組み(全社) <ul style="list-style-type: none"> <li>動画を配信して口腔の健康が全身疾患に繋がることを伝え、歯科健診に行くことの重要性を感じてもらう</li> <li>歯科グッズの配布</li> <li>取引先従業員のご家族にも展開</li> <li>鳥取県、鳥取県内企業に展開 地域医療の活性化 重症化防止による保険医療費の増大防止(高齢化社会において重要な課題と考える)</li> </ul> </li> </ul>

経済

	取組項目	取組確認	現在の取組 (実施内容や時期などを具体的に記載)	今後の目標・目標達成に向けた取組
2	セキュリティ対策	○	<p>【主な取組】(全社)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>情報セキュリティ方針の制定・実施</li> <li>情報セキュリティ対策を講じた安心・安全な製品、サービスの提供</li> <li>情報セキュリティ体制の維持</li> <li>サイバーセキュリティ対策の強化</li> <li>役員及び従業員に対して、情報セキュリティの知識と技術の向上及びガイドライン等の周知徹底を図り、セキュリティ能力の維持向上に努める</li> <li>リスクマネジメントの実施</li> </ul>	<p>【今後の目標・達成時期】(全社)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>IT 資産管理システムの更新 (2023 年度 全社)</li> <li>新人への情報セキュリティ方針の教育(毎年継続 全社)</li> </ul> <p>【目標達成に向けた取組】(全社)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>世の中の変化に対応して情報セキュリティ方針を適宜改訂</li> <li>社内で利用する USB デバイス数の把握、台帳への登録 (2023.5~7)</li> <li>USB デバイスの暗号化機能の有効化 (2023.8)</li> </ul>
3	法令順守の取組 の徹底 <b>必須項目</b>	○	<p>【主な取組】(全社)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>法令遵守方針の制定・実施</li> <li>会社活動に関わる全ての法令を遵守し、顧客対応及び社会活動を行う</li> <li>医療機器の品質、有効性及び安全性に関連する国内外の法令、自主基準等の順守</li> <li>国内及び輸出先国の新たな関連法規制を常に監視、理解して対応及び適切な措置を行う</li> <li>定期的なコンプライアンス委員会の開催</li> <li>当社品質方針、環境方針との整合を図り、関連法令を遵守し対応する</li> <li>製品開発プロセスにおける設計審査会 (DR) で販売する各国法規制に適合していることを企画から設計、生産、販売に至るまでの各関所でチェックを実施</li> <li>環境法令に対して、定期的(年1回)な法規制遵守評価を実施</li> </ul>	<p>【今後の目標・達成時期】(全社)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>法令遵守の継続(毎年 全社)</li> <li>新人への法令遵守教育の実施(毎年 全社)</li> </ul> <p>【目標達成に向けた取組】(全社)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>法令順守体制の構築・維持・改善</li> <li>世の中の変化に対応して法令遵守方針/コンプライアンス管理規定を適宜改訂</li> <li>管理監督職向けの階層別教育にコンプライアンスに関する内容を追加</li> <li>入社時に全社員への教育・啓蒙を実施</li> <li>製品開発プロセスにおける設計審査会 (DR) で販売する各国法規制に適合していることを企画から設計、生産、販売に至るまでの各関所でチェックを引続き実施する</li> <li>環境法令に対して、定期的(年1回)な法規制遵守評価を継続して実施</li> </ul>
4	情報公開	○	<p>【主な取組】(全社)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>HP で経歴書を公開 (経営理念、会社概要、社員数、資本金、代表者、取引銀行、産業財産権 保有件数、主要生産及び販売品目、許認可および国際規格の認証、工場設備概要、加入協会・学会、会社の沿革、主要な関連会社)</li> <li>モリタグループの SDGs 取組みを HP で公開 日本語及び英語にて</li> <li>就職活動に必要な人事給与労務情報の公開</li> <li>公表の基準を設定 (医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律に基づき、医療従事者の方向けに公開する情報あり)</li> </ul>	<p>【今後の目標・達成時期】(全社)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>モリタ製作所の SDGs 取組みをHP上で公開する 2024 年度までの実績と今後の取組みについて (2025 年度 全社)</li> </ul> <p>【目標達成に向けた取組】(全社)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「医療」「人」「地球環境」における各取組み項目におけるこれまでの達成状況の集計及び今後の取組みのまとめ</li> </ul>
8	デジタル化による生産性向上	○	<p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生産プロセスにおけるデジタル化の推進体制 づくりPJを発足 (製造間接業務ものづくり大改革プロジェクト 2018 年~全社)</li> <li>全社的なデジタル化の推進 営業 販売管理システム 人事 評価、勤怠管理、社用車管理システム 財務 経費精算システム 鳥取 組立管理システム、金型管理システム</li> </ul>	<p>【今後の目標・達成時期】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生産プロセスにおける製造間接業務のデジタル化 (2030 年度 全社)</li> </ul> <p>【目標達成に向けた取組】(全社)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>方針を策定(2023 年度期初に策定済) <ul style="list-style-type: none"> <li>○ものづくりの進化と強化 (ものづくり大改革の進展) 生産性向上を実現し国際競争力のある 生産拡大へ繋げる 手段 DX・自動化と改善</li> </ul> </li> <li>製造間接業務のデジタル化を行う <ul style="list-style-type: none"> <li>・製造現場の業務を直接業務と間接業務に分離</li> <li>・組立モジュール単位での部品表、生産計画、在庫管理、払出し</li> <li>・間接業務で扱うアナログデータをデジタル化 (モバイル化、ペーパーレス化、自動化、協業化)</li> <li>・倉庫管理システム(WMS)の運用開始し部品補給業務のデジタル化を図る</li> </ul> </li> <li>②でデジタル化した各項目を社内の基幹システムと連携を図る</li> </ol>

9	雇用の維持・拡大	○	<p>【主な取組】(全社)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入社後のフォロー面談実施による離職の防止</li> <li>・内定者フォロー企画の実施</li> <li>・拡販による生産拡大</li> <li>・部品の内製化など他社に委託している業務を社内に引揚げる取組を随時実施</li> </ul>	<p>【今後の目標・達成時期】</p> <p>鳥取工場新規採用 10名(2026年3月まで)</p> <p>【目標達成に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会社説明会の継続的な実施(年間6回程度 鳥取工場)</li> <li>・倉吉市企業紹介パンフレットに掲載</li> <li>・ハローワーク倉吉さんとの連携による採用活動の促進</li> <li>・拡販による生産拡大の継続実施</li> <li>・部品の内製化など県外他社に委託している業務を社内に引揚げる取組を継続実施</li> </ul>
10	人材育成・能力開発	○	<p>【主な取組】(全社)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・階層別教育の見直し</li> <li>・公的資格制度の見直しと対象資格の拡大</li> <li>・上位公的資格取得者には全社表彰を行い、資格取得への意欲を高める</li> <li>・職務等級基準書に必要なスキル/資格を明確化し人材育成を推進する</li> <li>・育成ローテーション実施による社員の計画的な育成</li> <li>・通信教育受講の推奨(2022年度20名受講)</li> <li>・QC検定や技能検定の取得支援継続</li> </ul>	<p>【今後の目標・達成時期】(全社)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職能等級基準書の書き換え(2023年度末 全社)</li> <li>・通信教育受講社員の拡大 50名(2024年3月 全社)</li> </ul> <p>【目標達成に向けた取組】(全社)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・e-ラーニングを導入することにより、ライフスタイルに合わせて受講できるようにする</li> <li>・自己啓発学習に対する会社の補助の拡充</li> <li>・職能等級書の書き換えを視野に入れて人材育成について毎月の幹部会にて部次課長で討議を実施</li> </ul>

環境

	取組項目	取組確認	現在の取組 (実施内容や時期などを具体的に記載)	今後の目標・目標達成に向けた取組
3	<p>【環境負荷リスクの分析・対策】</p> <p>自社の事業活動が引き起こす影響</p>	○	<p>【リスク・機会の分析】(全社) 当社の活動がもたらす環境負荷へのリスク及び機会は以下の通り</p> <p>①インプット 原材料 段階 原材料の調達 リスク 資源の枯渇 気候変動、森林伐採、水資源の枯渇、大気汚染、騒音、振動、水質汚濁 児童労働、紛争鉱物</p> <p>②インプット エネルギー 段階 製品設計～生産 リスク 資源の枯渇 気候変動(エネルギー消費) 大気汚染、森林伐採 騒音、振動、水質汚濁</p> <p>③アウトプット 廃棄物 段階 製品設計～生産 リスク 資源の枯渇 気候変動(エネルギー消費) 大気汚染、騒音、振動、水質汚濁</p> <p>③アウトプット 製品 段階 製品の使用 リスク 気候変動(エネルギー消費) 水質汚濁</p> <p>④アウトプット 廃棄物 段階 製品を廃棄するとき リスク 資源の枯渇 気候変動(エネルギー消費) 大気汚染、騒音、振動、水質汚濁</p> <p>【分析に基づく主な取組】(全社) ・事業活動が引き起こす環境へのリスク及び機会を分析し、「取組む必要があるリスク及び機会」としてまとめている。 ・ライフサイクルの視点を考慮し、組織の活動・製品及びサービスについて、環境側面を抽出し、それらに伴う環境影響を評価し、著しい環境側面を決定している ・リスク及び機会、著しい環境側面を考慮にいて、全社環境目標を設定している</p>	<p>【今後の目標・達成時期】(全社) ・FSC(森林認証紙)を社内での業務に使用(2024年度 全社) ・FSC(森林認証紙)の取扱説明書への採用(2024年度 全社) ・製品添付文書のデジタル化(2026年度 全社)</p> <p>【目標達成に向けた取組】(全社) ISO14001で継続して取組み ・事業活動が引き起こす環境へのリスク及び機会を分析し、「取組む必要があるリスク及び機会」として継続して毎年まとめる ・ライフサイクルの視点を考慮し、組織の活動・製品及びサービスについて、環境側面を抽出し、それらに伴う環境影響を評価し、著しい環境側面を継続して毎年決定する ・リスク及び機会、著しい環境側面を考慮にいて、全社環境目標を継続して設定し、本項目環境3以外に本様式の環境4、環境5、環境6、環境7、環境8、環境9、環境10、環境プラスワンの取組みに振り分ける</p>
4	<p>【カーボンニュートラル①】</p> <p>&lt;省エネ&gt;燃料消費量の削減</p> <p>重点項目</p>	○	<p>&lt;KPI&gt; CO2排出量 213t-CO2/年(2021年度時点全社) ※売上高あたり排出量(t-CO2/百万円)でも可</p> <p>【主な取組】 ・鳥取工場で、昼食を地域の弁当屋から配達してもらい流し台で使う水を減らし雑排水の量を減らす取組を継続することに加えて、2022年度より、排水循環システムで使うLPGガス(2021年度180t-CO2)を削減するために、乾燥させる排水を減らして産業廃棄物として処理する排水の量を増やす取組を開始 2022年度のLPGガス80(t-CO2)であり2021年度と比べて、100(t-CO2)削減することができた(鳥取工場) ・都市ガスから電気への置換え検討(本社)、現在予算案策定の段階工事業者の選定を済ませ設計の段階</p>	<p>【今後の目標・達成時期】 &lt;KPI&gt; CO2排出量 80t-CO2/年(2026年度全社) 0t-CO2(2030年度全社) ※売上高あたり排出量(t-CO2/百万円)や基準年に対する削減割合目標なども可</p> <p>【目標達成に向けた取組】 ・都市ガスから電気への置換えを継続実施して置き換えることで約30(t-CO2)下がる(本社) ・排水循環システムで使うLPGガス(80t-CO2相当2022年度)の廃止を検討、具体的には、日本古来の「肥溜め」「畑」の原理を利用して、無電源、無放流で処理可能な環境配慮型トイレの仕組みの採用(鳥取工場)</p>

<p>5</p> <p><b>【カーボンニュートラル②】</b>  <b>&lt;省エネ&gt;電力消費量の削減</b>  <b>重点項目</b></p>	<p>○</p>	<p>&lt;KPI&gt;  CO2 排出量 4,250t-CO2/年(2021 年度時点全社)  ※売上高あたり排出量(t-CO2/百万円)でも可</p> <p><b>【主な取組】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エネルギー消費原単位削減の取組み 経済産業省 省エネ法 事業者クラス分け評価制度 S クラス認定(令和 3 年度、令和 4 年度報告分 全社)</li> <li>・デマンド監視装置を設置し、デマンド超過しそうになったら手動で空調を OFF して節電を実施(全社)</li> <li>・生産時期をなるべくまとめるなどの設備の効率的な運用を実施(全社)</li> <li>・照明の LED 化(全社)</li> <li>・照明のセンサーでの ON/OFF(全社)</li> <li>・コンプレッサーの省エネ(高効率機の採用、適正な台数、吐出圧力低減 全社)</li> <li>・通年消費効率のよい空調への更新(全社)</li> </ul>	<p><b>【今後の目標・達成時期】</b>  &lt;KPI&gt;  CO2 排出量 2,125t-CO2/年(2030 年度全社で 2020 年度比 50%削減)  ※売上高あたり排出量(t-CO2/百万円)や基準年に対する削減割合目標などでも可</p> <p><b>【目標達成に向けた取組】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エネルギー消費原単位削減の取組み継続</li> <li>・管理標準にもとづくエアコンの運転継続(全社)</li> <li>・デジタル化を中心とした業務効率化で残業時間を減らすことで電力使用量を削減(全社)</li> <li>・工程内不良の削減し修正に係る時間、設備の稼働を減らすことで電力使用量を削減(全社)</li> <li>・自働化、ロボット化による生産効率向上(全社)</li> <li>・紙の電子化により、本社一鳥取間での社内文書回覧業務にかかる電力削減及び印刷機が使う電力の削減</li> <li>・塗装工程で使う熱の再利用(鳥取工場)</li> <li>・塗装工程の乾燥炉運用見直し(鳥取工場)</li> <li>・樹脂成形工程の乾燥炉運用見直し(鳥取工場)</li> </ul>
<p>6</p> <p><b>【カーボンニュートラル③】</b>  <b>&lt;創エネ&gt;再生可能エネルギーの導入</b>  ※再エネの売電は、環境 9「環境配慮型商品・サービスの提供」に記載してください</p>	<p>○</p>	<p>&lt;KPI&gt;  再エネ発電量 0 万 kWh/年(2022 年度時点全社)  ※全使用電力に対する割合でも可</p> <p><b>【主な取組】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・再エネ由来電力の導入を検討中 中国電力と協議を実施し、見積受取まで進んでいる、現在は実施期を見極めている段階(鳥取工場)  (本社に関しても関西電力と協議を実施し、見積受取まで進んでいる)</li> <li>・新規に当社敷地内に自家発電用太陽光パネルの設置を検討(全社)  CO2 削減のための取組みの一つとして案にあがっており、予算案策定の段階  鳥取工場においては、工事業者の選定を済ませ太陽光パネルの設置場所を検討している段階(鳥取工場)  本社工場においても鳥取工場と同じ段階</li> <li>・外灯に太陽光パネルつき LED を採用し、商用電源に頼ることなく照明を確保(鳥取工場)</li> </ul>	<p><b>【今後の目標・達成時期】</b>  &lt;KPI&gt;  再エネ由来電力 500 万 kWh/年(2030 年度全社)(2021 年度の全社における使用電力量の 50%)</p> <p><b>【目標達成に向けた取組】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・再エネ由来電力切替に向けて継続調査(2023 年度中に 2030 年度に向けてどの時期にどのくらいの量を再エネに切り替えていくのか具体的な切替計画を作成 全社)</li> <li>・新規に当社敷地内に自家発電用太陽光パネルの設置検討を継続(設計、見積のフェーズに移り、予算計上、稟議申請を進める 全社)</li> <li>・風力を利用してコンプレッサーを動かし、エアーを貯める仕組みを内製する(鳥取中部地域の天候の特徴を有効活用)</li> </ul>
<p>7</p> <p><b>廃棄物の削減</b>  ※事業系一般廃棄物、特別廃棄物など、産業廃棄物以外も含めた取組としてください</p>	<p>○</p>	<p>&lt;KPI&gt;  総廃棄物発生量 362t/年(2021 年度時点全社)  ※売上高あたり廃棄量(t/百万円)でも可</p> <p><b>【主な取組】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・樹脂成形くずの削減(射出成形工程の不良率削減による 鳥取工場)</li> <li>・金属くず、廃プラスチックの削減(加工工程、組立工程における工程内不良の削減による 全社)</li> <li>・廃プラの RPF リサイクル(全社)</li> </ul>	<p><b>【今後の目標・達成時期】</b>  &lt;KPI&gt;  総廃棄物発生量 300t/年(2030 年度時点全社)  ※売上高あたり廃棄量(t/百万円)でも可</p> <p><b>【目標達成に向けた取組】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・工程内不良削減の取組みの継続により廃棄する材料を減らす(全社)</li> <li>・外注から購入する部品の梱包の簡易化を取引先に投げかける(全社)</li> <li>・工程間の部品のやり取りをビニル袋から通い箱に置き換えて廃プラを削減する(全社)</li> </ul>

8	水資源の適正な管理	○	<p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水質汚濁防止法などに基づく適正な管理・運用(全社)</li> <li>・雨水以外の水を工場から排出しない、『排水循環システム』を採用し、工場内で使用する雑排水を中水としてトイレの流し水に再利用(鳥取工場)</li> </ul>	<p>【今後の目標・達成時期】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・雨水以外を工場外に排出しない(鳥取工場 毎年)</li> <li>・緊急事態対応訓練の継続実施(鳥取工場 毎年1回)</li> </ul> <p>【目標達成に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『排水循環システム』の運用 日常点検、定期点検を実施し、破損などによる排水の外部への排出を防ぐ(鳥取工場)</li> <li>・緊急事態対応訓練の実施 油や洗浄液のタンクを転倒させたなど、工場内で不慮の事故が起きた場合でも、雨水排水口に工場排水が流れ込まないよう緊急事態対応訓練を定期的実施(全社)</li> </ul>
9	<p>環境配慮型商品・サービスの提供</p> <p>※環境に関する内容を記載してください</p>	○	<p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ユーザーが当社製品を「廃棄物の処理および清掃に関する法律」に従って適正に廃棄できるようにするため情報提供を実施(全社) <ul style="list-style-type: none"> <li>・当社 web サイトに器種カテゴリごとの廃棄物の分類表を掲載</li> <li>・取扱説明書に廃棄物の分類表へのリンク掲載を順次進める</li> </ul> </li> <li>・製品に付いていく付属品を見直し廃止、数量削減、袋の見直し(材質表示し、リサイクルに回るようにする 全社)</li> <li>・RoHS2 指令に対応(全社)</li> <li>・塩化ビニル製レーザーシートの製品廃棄の焼却時にダイオキシンが発生するリスクよりチェアユニットのレーザーの材質を「塩化ビニル」→「ポリウレタン」に変更した(全社)</li> <li>・製品動作時、待機時の消費電力を削減 X 線照射時間を従来製品の 1/2 以下にしたレントゲン装置を販売(全社)</li> <li>・レントゲン装置のデジタル化を進め、フィルム現像液の廃液を削減した(全社)</li> <li>・製品梱包箱のサイズの適正化 梱包箱のサイズを見直して、トラック 1 台あたりの積載量を増やし輸送回数を減らして CO2 排出量を削減した(全社)</li> <li>・再生可能エネルギー(太陽光発電)の中国電力への売電(鳥取工場)</li> </ul>	<p>【今後の目標・達成時期】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大型製品(レーザー装置)の製品梱包材の再利用実施(2025 年度開始 全社)</li> <li>・再生可能エネルギー(太陽光発電)の中国電力への売電継続(毎年 鳥取工場)</li> </ul> <p>【目標達成に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大型製品梱包箱の再利用について(全社) <ul style="list-style-type: none"> <li>・製品物流における関係業者との折衝</li> <li>・再利用梱包箱での品質確保</li> <li>・再利用梱包箱の保管方法検討</li> </ul> </li> <li>・再生可能エネルギーの売電について(鳥取工場) <ul style="list-style-type: none"> <li>・太陽光発電設備の日常点検、定期点検の実施</li> <li>・更新計画に基づく受変電設備内の電気機器の更新実施</li> </ul> </li> </ul>
10	<p>環境面での社会貢献</p> <p>※環境に関する内容を記載してください</p>	○	<p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グリーン調達ガイドラインを策定し取引先を評価して購買活動を実施(全社)</li> <li>・雨水以外の水を工場から排出しない「排水循環システム」を採用・推進し、地域の自然環境保護に貢献(鳥取工場)</li> <li>・環境にやさしい粉体塗装を実施(全社)</li> <li>・オゾン破壊係数がゼロの洗浄液による部品洗浄の実施(全社)</li> <li>・ハブラシリサイクルプログラムに参画し、社員の歯の健康と地球環境に貢献(貯まったポイントは世界中の苦しむ人々や地域や教育への支援として寄付する(主要取引先にも展開し、パートナーシップで取組みを推進)(全社)</li> </ul>	<p>【今後の目標・達成時期】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生物地球化学循環のリスクを低減する(2030 年度 リン使用量 2015 年度比 50%削減 全社)</li> </ul> <p>【目標達成に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各塗装品目の前処理を無リン化設備での運用に順次置き換える(鳥取工場)</li> </ul>
+	<p>プラスワン</p> <p>【CO2 削減の取組み (Scope3)】</p> <p>★SDGs に関する特徴的取組で、環境1～10に該当しない取組があれば記載できる</p>	○	<p>【主な取組】(全社)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スコープ3集計方法の検討を実施中 カテゴリ1～7,9,11,12,15を対象</li> </ul>	<p>【今後の目標・達成時期】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スコープ 3 排出量集計を開始(2023 年度 全社)</li> <li>・スコープ 3 の自社でコントロールできるカテゴリについて削減する <ul style="list-style-type: none"> <li>・6 出張 2023 年度比 30%削減(2030 年度 全社)</li> <li>・9 輸送、配送(下流) 2023 年度比 20%削減(2030 年度 全社)</li> </ul> </li> </ul> <p>【目標達成に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・EV 車の導入(本社一鳥取の出張用)</li> <li>・製品輸送の効率化(全社)</li> </ul>